
『夢の体。』

synchronicity529

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

『夢の体。』

【Nコード】

N8529K

【作者名】

synchronicity529

【あらすじ】

内と外の境界線に現れる暫定的な身体があるから悩み続ける。だから水と油の境界線にフとした瞬間惹き付けらる。精神と社会の間には顔や体のような表象は必要不可欠だが、それは本来的な自己理解を歪め得るのではないか。

しかし、裏を返せば『歪みを意図的に再考すること』は『珍味と文献を併せて享受するとき』のような恍惚とし、うっとり与自己が消滅していけるような気分にならせてくれ得るのではないだろうか。

それは【『決して美味しいとは誰も思っていない』が故に美味しい』と確信的に気付きながら無駄金が出来たときに興じて楽しむ』という両極端を内包して幾重にもミルフィーユ（重層）させて同時に楽しむという行為。または現代の並列し均衡を保ちすぎた周囲に対して一時どこかに抜け出せるという意味で呪文またはドラッグ。もしくは「歪みは『大妙に贅沢な嗜好品』である」という人生の抜け道を補助する問いとして快。

体の中から自分が出たがっている。嗚咽はやがて吐き気へかわり視覚の替わりに鋭くなった嗅覚は全身という繋がった身体を部分に解体しつつある。敏感な嗅覚により嫌気で頭がもたげている意識だけがもたげさせ鼻の奥に残っている。

いつまでも走馬灯が続いていく、音に記憶が付随している、私達は音を介してどこか奥のほう、それは臍の緒よりも深い、で繋がっている。

ベットの上で目が覚めると自分が寝ている体とベットの間で沈んでいくのを感じた。目は本来の位置より後方、後頭部に近い位置、それは脳の辺りを漂っている。意識としての自分が半身分ベットに沈み込んでいる。息がきつく体が鉛のように重く動かない。目の位置はもうベットの下から、そこにあるだろう体を見上げていた。ベットから落ちていく。床に接地した瞬間体に意識は戻っていた。

鏡の中に知らない人がいて、でもそれはいつもの自分のだが、私は鏡でしか自分をみたことがないと気付く。鏡で見る自分が自分なのか、鏡の中の自分が自分なのか。自分の中から自分を感じてみた。桜井和寿が「ミラー」というラブソングを歌っていたのはこのことかと気付く。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8529k/>

『夢の体。』

2010年10月22日09時39分発行